

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成28年度技術情報第12号（ダイズ・サツマイモ・野菜類・花き類のハスモンヨトウ）
について（送付）

ハスモンヨトウについて情報を取りまとめましたので送付します。今後の発生に注意してください。

平成28年度技術情報第12号

- 1 農作物名**
ダイズ，サツマイモ，
野菜類（イチゴ，根深ネギ，サトイモ，オクラ，キャベツ，
サヤインゲン，サヤエンドウ等）
花き類
- 2 病害虫名**
ハスモンヨトウ
- 3 予報内容**
 - (1) 発生地域 県本土，熊本地域
 - (2) 発生量 やや多
- 4 予報の根拠**
 - (1) 8月下旬に行った巡回調査での発生ほ場率は，サトイモで100%（平年82%），ダイズで100%（平年78%）と平年よりやや高く，発生程度の高いほ場も認められた（表1）。
 - (2) 県農業開発総合センター大隅支場（鹿屋市串良町）のフェロモントラップでの誘殺数は，7月以降，平年より多い傾向にある（図1）。
 - (3) 本年と同様に8月に降雨が少なくフェロモントラップでの誘殺数の多かった平成21年（病害虫発生予察注意報第3号発表）は，9月以降被害が多発した（図2）。本年は，向こう1か月の天候も平年と同様晴れの日が多く，気温は高いと予想されており，今後も増加することが予想される。
- 5 防除上注意すべき事項**
 - (1) 若齢幼虫は集団で表皮を残して食害し白変葉を生じるので，ほ場を見回り早期発見に努める。
 - (2) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら，速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
 - (3) 老齢幼虫に対する薬剤の効果は低いので，若齢幼虫のうちに防除する。
 - (4) 施設栽培では，開口部に防虫ネットを設置し成虫の侵入を防ぐ。なお，成虫はネット上などにも産卵し，ふ化幼虫がネットの目をくぐり抜けて施設内に侵入することがあるので注意する。
 - (5) ジアミド剤，スピノシン剤，マクロライド剤，IGR剤，その他薬剤は高い殺虫効果を示した。ほ場により薬剤感受性は異なると考えられるため，薬剤散布後に効果確認を行う（表2）。

表1 巡回調査におけるハスモンヨトウの発生状況

作物名	発生ほ場率 (%)			概評
	本年	前年	平年	
オクラ	40	10	31	並
サトイモ	100	75	82	やや多
ダイズ	100	92	78	やや多

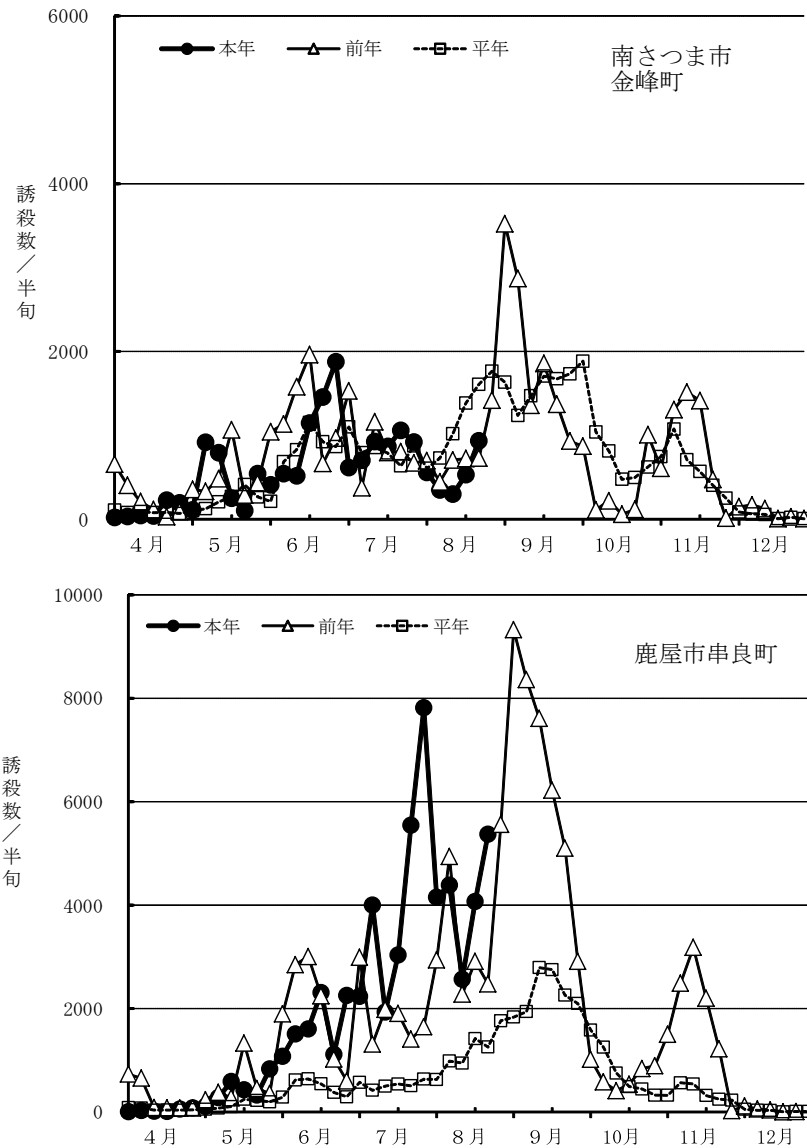


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況 (28年8月25日現在)

【参考】

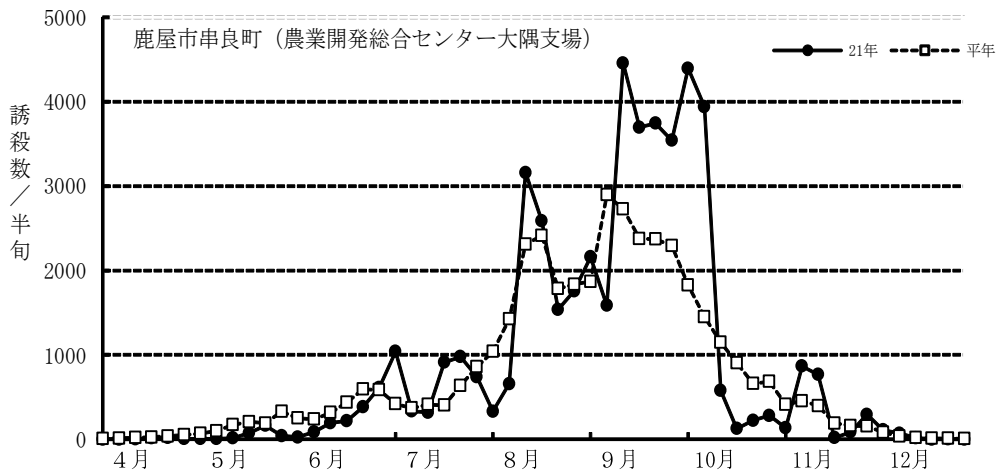


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況（平成21年）

【各種薬剤のハスモンヨトウに対する殺虫効果】

(1) 供試虫

平成27年10月2, 3日に日置市吉利のダイズほ場で採集した2齢幼虫を飼育し, 3齢幼虫を供試した。

(2) 検定日 平成27年10月5~8日

(3) 試験方法

所定の倍数で希釈した薬液にキャベツの葉を30秒間浸漬して, 風乾した後, 直径9cmの濾紙を敷いたシャーレ内に置き, 3齢幼虫を12頭放飼した。放飼後のシャーレは25℃設定の室内に静置し, 処理24, 48, 72時間後に生死（苦悶虫は死亡虫に含む）を調査した。

表2 各種薬剤のハスモンヨトウ3齢幼虫に対する殺虫効果

供試薬剤名	系統名	希釈倍数	供試虫数 (頭)	死虫率 (%)		
				24hr	48hr	72hr
プレバソンFL5	ジアミド [®]	2,000	36	100	100	100
フェニックス顆粒水和剤	ジアミド [®]	2,000	36	100	100	100
アフーム乳剤	マクロライト [®]	1,000	36	36	97	100
ディアナSC	スピノシン	2,500	36	92	100	100
トレボン乳剤	ピレスロイド [®]	1,000	36	25	44	44
オルトラン水和剤	有機リン	1,000	36	3	17	19
トクチオン乳剤	〃	1,000	36	61	67	86
ランネート45DF	カーバメート	1,000	36	58	61	64
カスケード乳剤	IGR	2,000	36	0	8	100
マッチ乳剤	〃	3,000	36	3	22	100
ゼンターリ顆粒水和剤	BT	1,000	36	0	19	31
コテツFL	その他	2,000	36	100	100	100
プレオFL	〃	1,000	36	19	83	100
アクセルFL	〃	1,000	36	89	100	100
トルネードエースDF	〃	2,000	36	83	100	100
水(水道水)		—	36	0	0	0

展着剤（ブレークスルー：5000倍）を加用

供試虫数：3反復の総数